

[第41回奈良県芸術祭参加]

バロック音楽の輝き

2010年10月1日(金)7:00pm

カトリック奈良教会



主催:音楽の散歩道
後援:奈良YMCA音楽院

プログラム

Georg Philipp Telemann (1681~1767)
Trio für Blockflöte, Viola da Gamba
und Basso continuo in F TWV42:F3
Vivace
Mesto
Allegro

G.Ph.テレマン
リコーダー、ヴィオラ・ダ・ガンバと
通奏低音のためのトリオ・ソナタ へ長調
ヴィヴァーチェ
メスト
アレグロ

Georg Friedrich Händel (1685-1759)
Sonate für Blockflöte in C op.1,Nr.7 HWV365
Larghetto
Allegro
Larghetto
A tempo di Gavotti
Allegro

G.F.ヘンデル
リコーダー・ソナタ ハ長調
ラルゲット
アレグロ
ラルゲット
ア・テンポ・ディ・ガヴオット
アレグロ

Voluntary in D

ボランタリー ニ長調

Georg Philipp Telemann
Trio für Blockflöte, Diskant Gamba
und Basso continuo in d TWV42:d7
Andante
Vivace
Adagio
Allegro

G.Ph.テレマン
リコーダー、ディスクアント・ガンバと
通奏低音のためのトリオ・ソナタ 二短調
アンダンテ
ヴィヴァーチェ
アダージョ
アレグロ

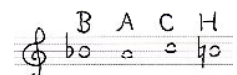


Johann Sebastian Bach (1685~1750)
Sonate für Viola da Gamba Nr.1
in G BWV1027
Adagio
Allegro ma non tanto
Andante
Allegro moderato

J.S.バッハ
ヴィオラ・ダ・ガンバのためのソナタ
第1番 ト長調
アダージョ
アレグロ・マ・ノン・タント
アンダンテ
アレグロ・モデラート

Fumi Takada
Introduktion und Passacaglia über BACH

高田富美
B-A-C-H による序奏とパッサカリア

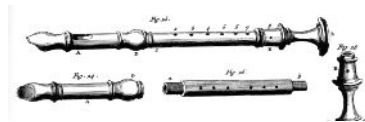


Johann Sebastian Bach
Sonata in F
(Aus der sechs Orgelsonaten BWV529)
Allegro
Largo
Allegro

J.S.バッハ
ソナタ 第5番 へ長調 (6曲のオルガンソナタより)
{ヴァルトラウト・キルヒナー、ゲールハルト・キルヒナー編曲}
アレグロ
ラルゴ
アレグロ

楽器について

リコーダー



リコーダーは、中世・ルネサンス・バロックと、各時代を通して広く愛好された楽器で、常にその花形として存在していました。ルネサンス時代には様々なサイズのリコーダーが作られ、ドイツで出版された《シンタグマ・ムジクム(音楽大全)》と題された音楽書の中には、手のひらにのる程の小さなサイズのものから、2mを超える大きなサイズのものまで、全部で9種類のリコーダーが紹介されています。主に声楽曲の中では、比較的大きなサイズのリコーダーが好まれて演奏されていたようです。バロック時代になると、リコーダーをはじめとする木管楽器は形状の単純なルネサンス・タイプのものから、バロック・タイプの装飾的なものへと移り変わり、その音色はよりシャープになり、音域もより広がりを見せました。そして、リコーダーのためのソナタや協奏曲なども数多く作曲されるようになり、楽器のサイズとしては、主にアルト・リコーダーが活躍するようになります。イギリスにおいては、単に「フルート」と呼ばれていたのは、このアルト・リコーダーのことでした。バロック時代の終わりには、音量や音楽的趣味の移り変わりによる音色の違いなどによって、リコーダーは横吹きフルートにその座を譲っていく事になります。

中村 洋彦

ヴィオラ・ダ・ガンバ

ヴィオラ・ダ・ガンバとは、イタリア語で「脚で支えて弾く弦楽器」という意味を持つ楽器で、バロック時代には、ヴィオラ・ダ・ブラッチョ族「腕で支えて弾く弦楽器」という意味の楽器、つまり今でいうヴァイオリン族の楽器と区別されていました。本日お聞き頂く2台の楽器は、ヴァイオリンとチェロの音域にあたりますが、大きさに関係なく楽器を縦にして両脚で挟むように構えて演奏いたします。小さい方のガンバは絃長がバスのちょうど半分になって、1オクターブ高い音が出ます。この外にもいろんな大きさのガンバがあり、一番大きいものはガンバが廃れてしまった後も用いられ、現代でもオーケストラの中でコントラバスとして活躍しています。弓はアンダーハンドでお箸を持つようにして、馬の尻尾の毛を直接指でふれて毛の張りを調節するのが特徴です。日本には、キリスト教の伝来とともに天正遣欧使節団によってもたらされ、織田信長や豊臣秀吉も、恐らくこの楽器の音色を聞いたであろうと伝えられています。

頼田 麗

オルガン

本日、使用するオルガンは、ドイツ、ハンブルクのオルガン製作者クラウス・セバスティアン氏により、持ち運び可能な楽器として製作されました。4種類の音色を持ち、樫(オーク)の木で作られたケースの中には、鍵盤、風箱の上に立てられた木管と金管の224本のパイプ、ふいご、そしてふいごに風を送るモーターが入っています。オルガンの語源は、ギリシャ語の Organon で「組み立てられた道具・器官」という意味です。オルガンは、鍵盤を押すとふいごから送られた風がパイプに流れ音を出すという仕組みになっています。複数の鍵盤を持ち、多くの音色を持つオルガンはパイプの数が多くなり大オルガンになっていきます。たとえば3つの鍵盤を持つオルガンは、それぞれ違った性格の3つのオルガンが組み立てられ、建造物のようにホールや教会に設置されているのです。そして、オルガンのふいごは、私達の肺であり、パイプの歌口からは人間が話すのと似たしくみで音が鳴っています。

高田富美

出演者

中村 洋彦／リコーダー

エリザベト音楽大学宗教音楽学科卒業。第4回全日本 リコーダーコンクールにおいて最優秀賞、朝日放送賞を受賞。1981年、82年、84年に渡欧、研鑽を積む。1987年第1回 リコーダーリサイタルを開催、その成果に対して大阪文化祭奨励賞を受賞。92年、95年にはフランス政府の招請により「ロワール河古城音楽祭」に出演する。「京都の秋 音楽祭 '99」では F.ザビエル来日450年「南蛮音楽伝来」のプログラム構成および演奏を担当する。

現在、相愛大学音楽学部非常勤講師、ダンスリー・ルネサンス合奏団に所属。

頼田 麗／ヴィオラ・ダ・ガンバ

相愛大学音楽学部卒業。チェロを日比野忠孝、斎藤建寛の各氏に師事。ヴィオラ・ダ・ガンバ及び室内楽を平尾雅子氏に師事。2001年ロータリー財団の国際親善奨学生としてドイツへ留学。その後スイスのルガーノ・コンセルバトリーオにて V.ギエルミ氏に師事。2002年よりバーゼル・スコラ・カントールムにて P.パンドルフォ氏のもとで研鑽を積み、2006年ディプロムコンサートを行い卒業。2007年ドイツの第4回テレマンコンクールにて「バーレンライター賞」を受賞。2008年兵庫県知事グランプリ賞を受賞。

現在、ラ・キュピス、ko-ha-ku、NADESHIKO、クロチェットの各メンバー。

高田 富美／オルガン

相愛女子大学音楽学部オルガン専攻卒業。ドイツ・ヴェストファーレン州立教会音楽学校に留学。久保田清二、広野嗣雄、A・シェーンシュテット、R・ブリーゲンの各氏に師事。1993年以来、オルガンとその他の楽器・声楽による演奏会を「音楽の散歩道」シリーズで企画している。現在、独奏、室内楽・合唱などとの共演等、演奏活動を続ける傍ら即興演奏をケルン音楽大学教授 J・ゲツファートと彼のアシスタントに学ぶためときおり渡独、ドイツでもコンサートを行っている。奈良YMCA音楽院講師。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。



「音楽の散歩道」は、

ドイツ、ハンブルク在住のオルガン製作者、クラウス・セバスティアン氏により製作された、持ち運び可能な小さなパイプオルガンと共に、独奏、アンサンブルのコンサートを企画しています。

シンプルな空気のなかで、風の音で創られるオルガンの自然な響きと、私達の創り出す 音楽を、多くの方々に聴いていただきたいと思っています。

ホームページ <http://www.kcn.ne.jp/~sanpo/>

E-mail: sanpo@kcn.ne.jp